

ーク (UMIN) から配布される。図 1 1 は、配布された ID とパスワードによりアクセスした JACVSD の入力サイトの第一画面である。新規患者登録は図 1 2 の画面から始まる。原則的には患者から同意書を取ることにしている。入力項目は図 1 3 のごとくパート A からパート T までに分かれている。入力したデータは検索画面でいくつかの条件で選び出すことが可能であり (図 1 4)、図 1 5 のごとく出力され、CSV 形式でダウンロード可能となる。データの閲覧は自施設のもののみであり、他施設のデータは供覧できない。

現在全国で 22 施設が参加しており 2002 年 6 月の時点で約 750 症例が集まっている。今後もデータ数を蓄積し、統計処理を行うこととしている。また、将来的には、英語版を作成し、アジア心臓血管外科学会と協力してアジア全域にわたる国際的な医学データベース構築を目指している。

現在我々が事務担当を行っており、連絡先

は以下の通りである。

連絡先：JACVSD事務局、高本眞一、本村  
昇。〒113-8655 東京都文京区本郷7-3  
-1, 東京大学医学部心臓外科医局内。

Tel: 03-5800-8654, Fax: 03-5684-3989

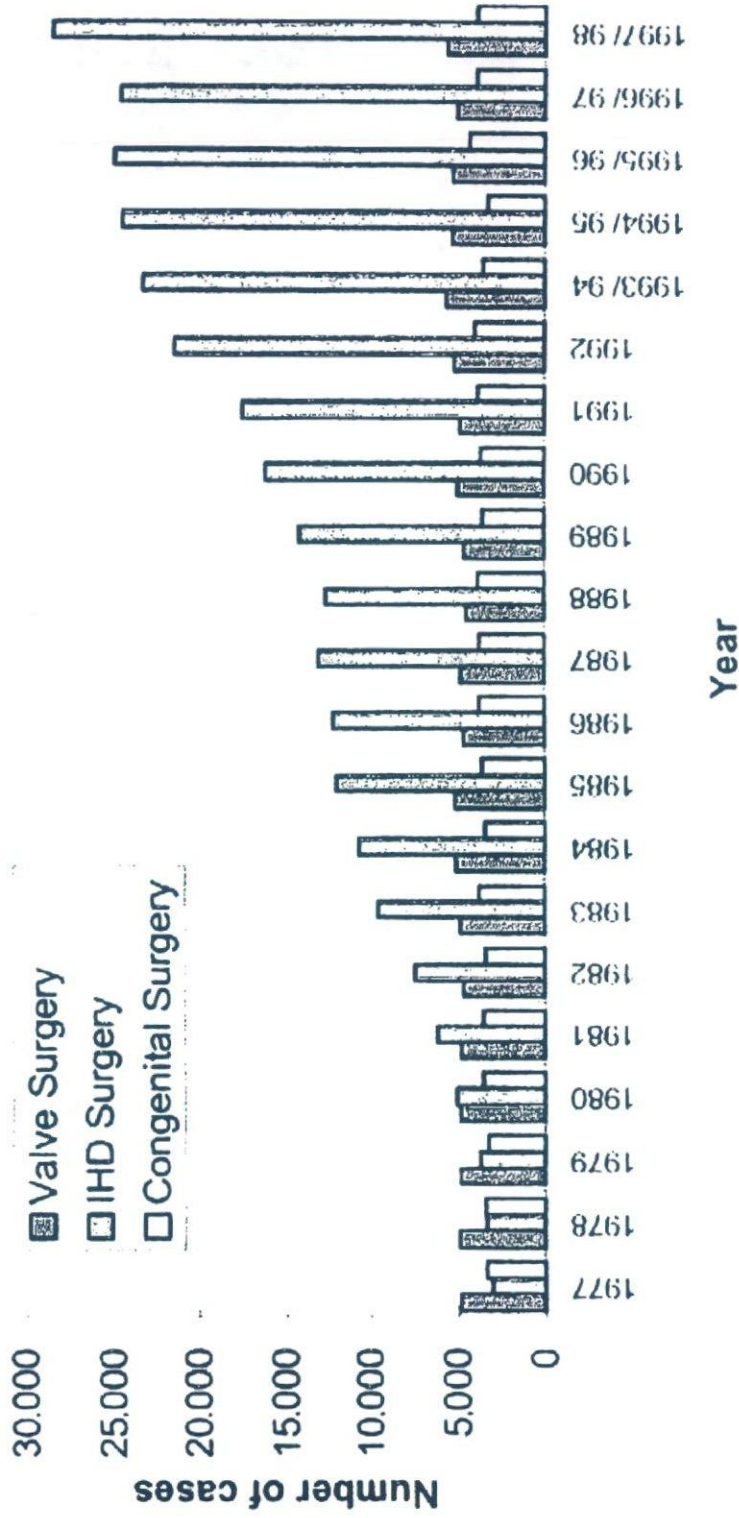
E-mail: n-motomura@umin.ac.jp (本村昇)

## 参 考 文 献

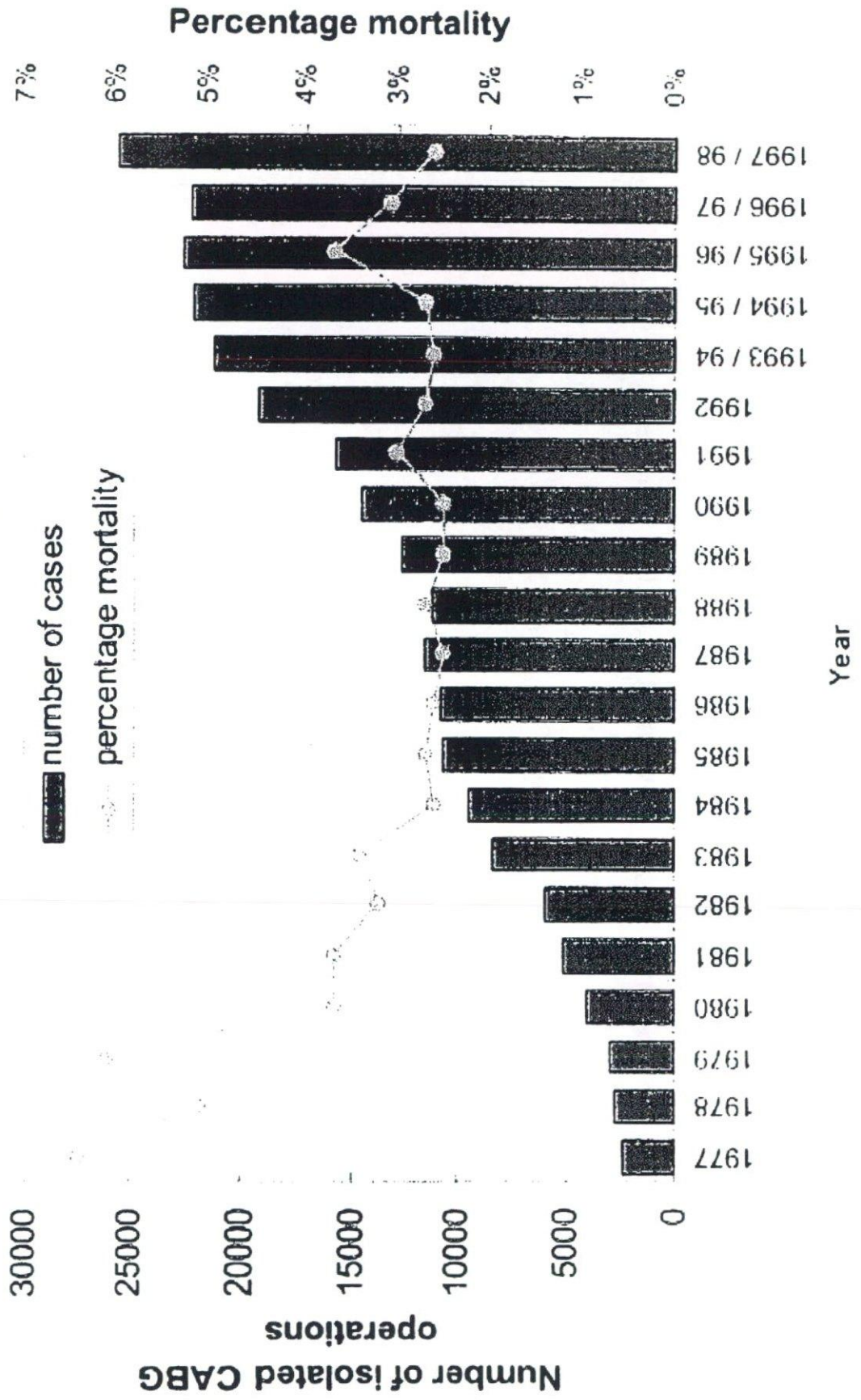
1. Japanese Association for Thoracic S.  
Thoracic and cardiovascular surgery  
in Japan during 1999. Annual report  
by the Japanese Association for  
Thoracic Surgery. *Jap J Thoracic &  
Cardiovasc Surgery*. 2001;49:528-41.
2. Ferguson TB, Jr., Dziuban SW, Jr.,  
Edwards FH, and et al. The STS  
National Database: current changes  
and challenges for the new millennium.  
Committee to Establish a National  
Database in Cardiothoracic Surgery.  
The Society of Thoracic Surgeons.  
*Annals Thorac Surgery*. 2000;69:680-91.
3. Parsonnet V, Dean D, Bernstein AD. A  
method of uniform stratification of  
risk for evaluating the results of  
surgery in acquired adult heart  
disease. *Circulation*. 1989;79:13-12.

4. Nashef SA, Roques F, Michel P, and et al. European system for cardiac operative risk evaluation (EuroSCORE). *Europ J Cardio-Thorac Surgery*. 1999;16:9-13.

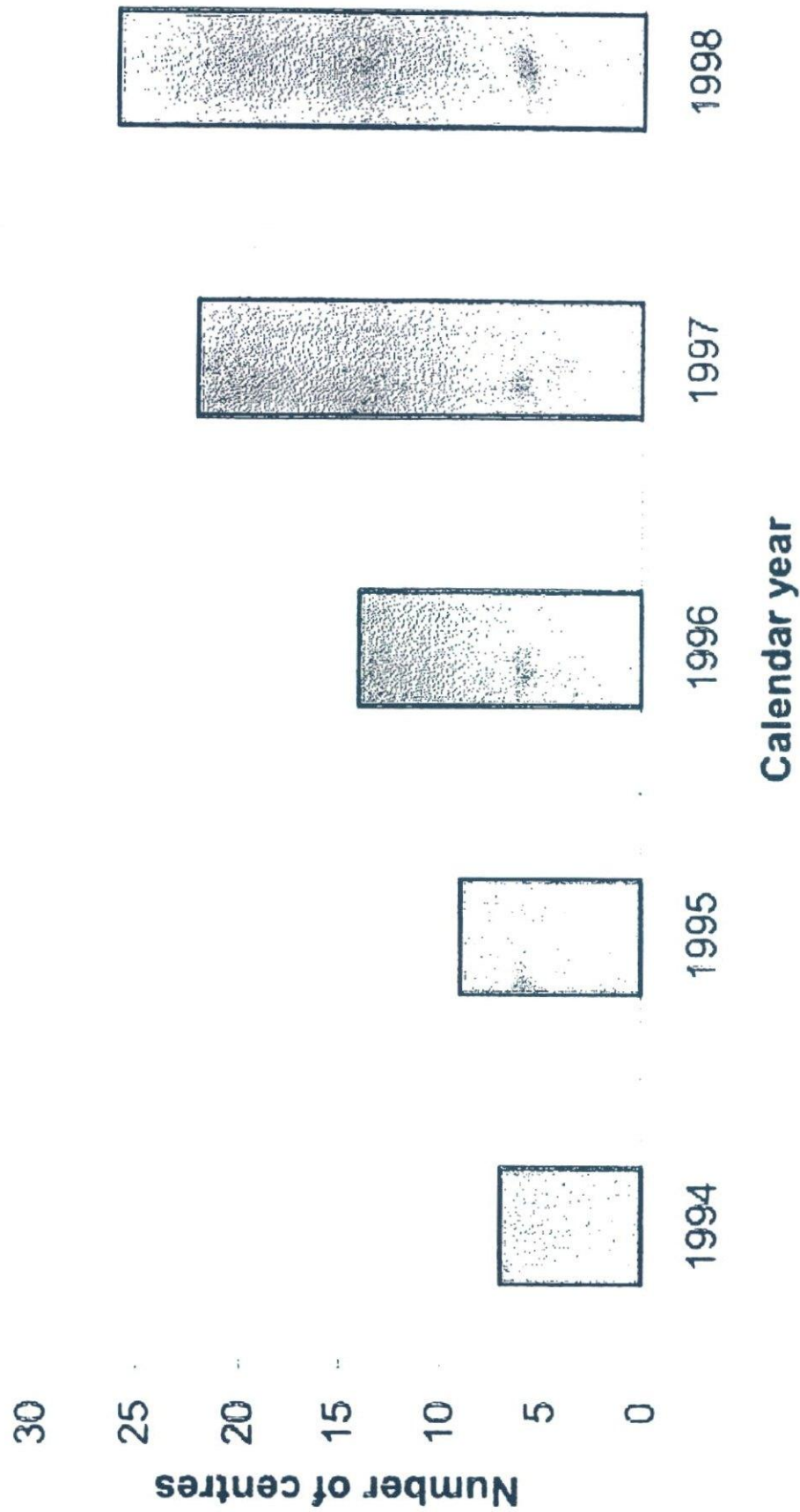
## Twenty year growth in Cardiac Surgery



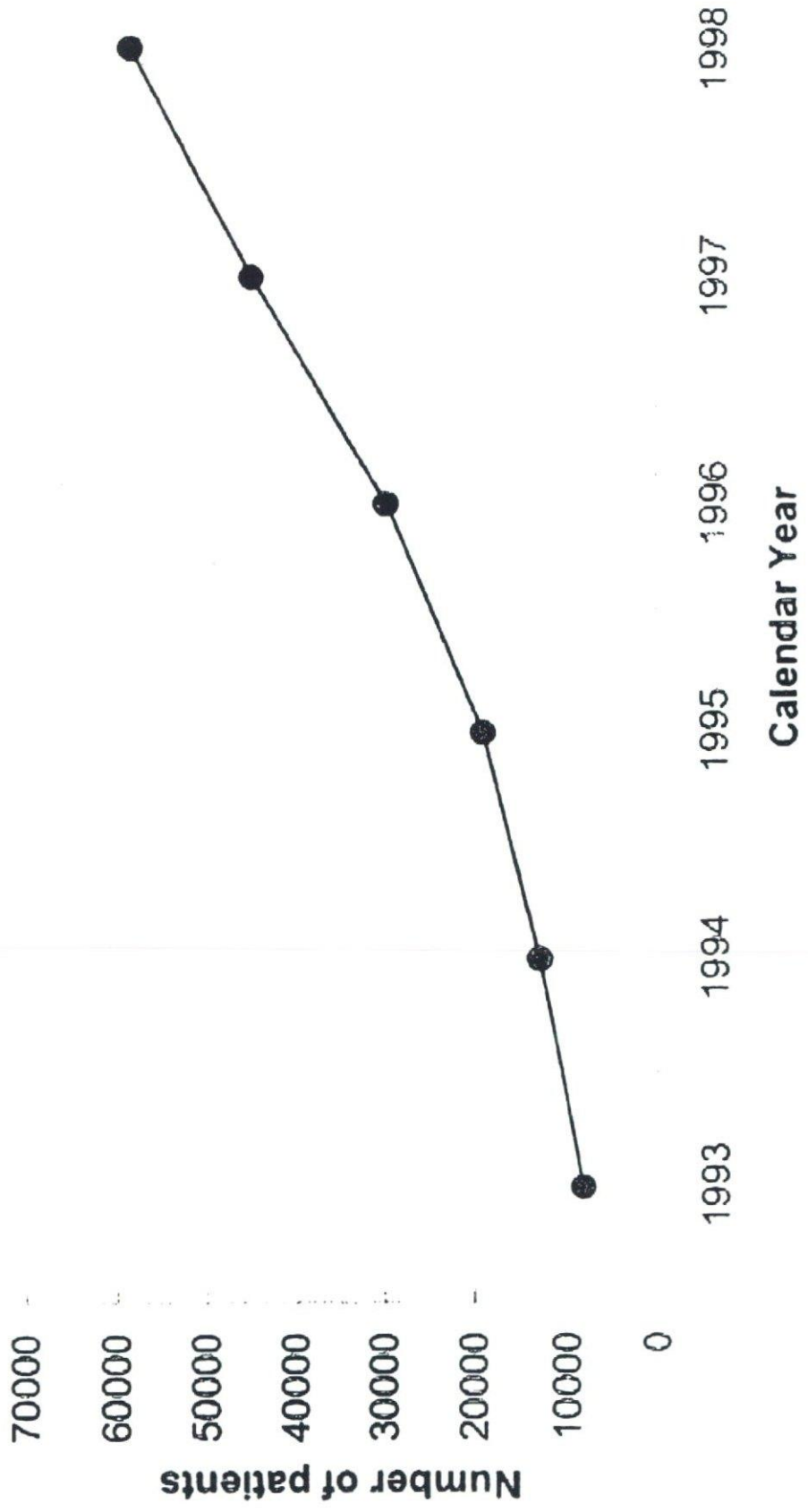
## Twenty year activity and mortality trends for isolated coronary surgery



# Number of Centres contributing to the National Adult Cardiac Surgical Database



## Number of patient entries in the National Adult Cardiac Surgical Database



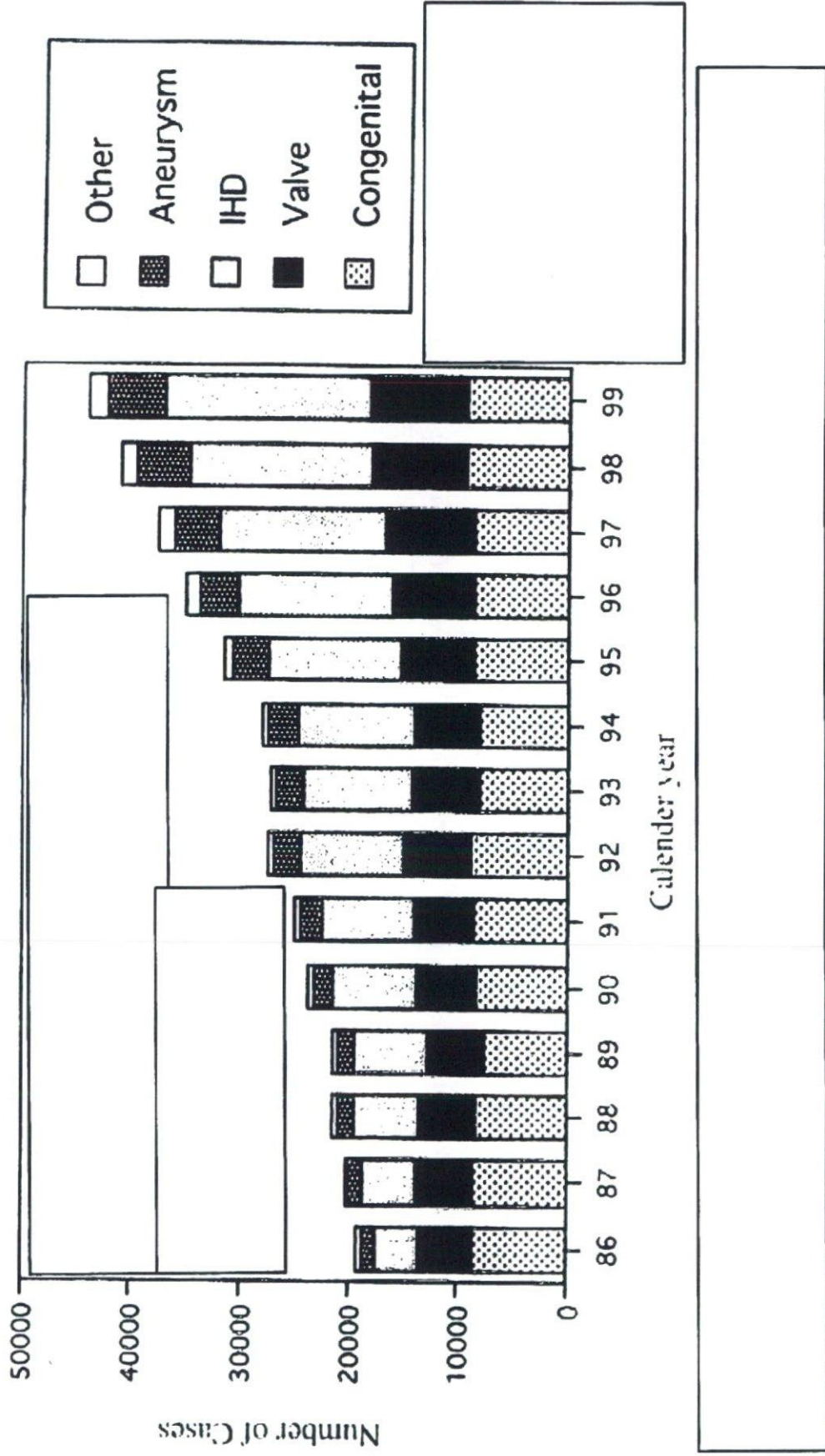


Form sent out and received back by the end of December 2000

	Sent out	Returned	Response rate
(A) Cardiovascular surgery	496	457	92.1%
(B) Respiratory surgery	654	595	91.0%
(C) Esophageal surgery	667	576	86.4%

Categories subclassified according to the number of operations performed

Number of operations performed	Category		
	Cardiovascular	Respiratory	Esophageal
1-24	62	142	473
25-49	90	152	58
50-99	142	170	30
100-149	74	76	8
150-199	41	33	3
≥ 200	48	22	4
Total	457	595	576



## データベース小委員会報告

2002年6月6日

委員長 高本眞一

### 1. 本年度の活動

#### (1) データ収集

Web base のデータ収集システムを用い、2002年1月より21施設でデータ収集を開始した。6月5日の時点で計721症例のデータが集まっている。

#### (2) 参加施設の拡大

これまで21施設が参加しデータ収集、データマネージャー会議を行ってきた。これに加えて大阪大学が新たに参加し、計22施設でデータ収集に取り組んでいる。

#### (3) データマネージャー会議の開催

2002年2月15日大阪にて、4月11日京都にて、それぞれ第2回（27名参加）、第3回（15名参加）のデータマネージャー会議を開催した。Web base データ収集システムの改良点、データ入力フォームの改良点など活発な議論が展開された。

### 2. 今後の展望

#### (1) Web base データ収集の継続

現在行っているデータ収集を今後も継続し、システムや入力フォームなどの改善活動を進めていく。

#### (2) 参加施設の拡大に関して

現在データ収集を行っているのは新たに加わった大阪大学を含め22施設である。各施設の活動状況を見て、これ以上に拡大すべきかどうか今後検討していく。

昨年に引き続き、日本成人心臓血管外科手術データベース Japan Adult Cardiovascular Surgery Database (JACVSD) の活動状況を報告する。

(1) インターネットを介したデータ収集の継続

インターネットを介しての Data Collection Form への記入を継続している。現在全国で21施設が参加しており、2003年1月16日の時点で入力総症例数2135となった。

(2) 参加施設の拡大

上記21施設でデータ収集状況を確認した後、参加施設を拡大するべく学会ホームページに全国に向けて再度公募した。応募条件は、「1. 成人心臓大血管外科手術 年間75例以上。2. データ入力（入力されたデータが正しいかのチェック；data validation）を責任持って遂行可能な人員（データマネージャー；医師である必要なし）を確保できる。3. 最低5年間継続できる。4. このデータベースに関連するセミナーや会議に出席できる。5. データ入力のためのコンピューターが確保できる。6. UMINと連結できる。」とした。その結果以下の40施設が応募された。

国立療養所帯広病院
岩手医科大学附属循環器医療センター
弘前大学医学部附属病院
医療法人社団仁愛会東日本循環器病院 心臓血管センター
自治医科大学附属病院
船橋市立医療センター
労働福祉事業団横浜労災病院
財団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院
東京医科大学病院
東京女子医科大学附属第二病院
東京都済生会中央病院
東邦大学医学部附属大橋病院
東邦大学医学部附属大森病院
大垣市民病院
公立陶生病院
信州大学医学部附属病院
富山医科薬科大学附属病院
名古屋市立大学病院

労働福祉事業団浜松労災病院
奈良県立医科大学附属病院
兵庫医科大学病院
広島市立安佐市民病院
鹿児島大学医学部附属病院
九州大学医学部附属病院
熊本大学医学部附属病院
国家公務員共済組合連合会熊本中央病院
財団法人厚生年金事業振興団九州厚生年金病院
佐賀医科大学医学部附属病院
佐賀県立病院好生館
社団法人宮崎市郡医師会病院
琉球大学医学部附属病院
市立旭川病院
聖マリアンナ医科大学病院
藤田保健衛生大学
関西医科大学
愛媛県立中央病院
山口大学医学部附属病院
徳島大学医学部附属病院
りんくう総合医療センター市立泉佐野病院
和歌山県立医科大学附属病院

これまでの21施設に加え、今後計61施設でデータ収集を行うこととなる。

### (3) 「日本胸部外科手術データベース機構」(仮称)の必要性

本データベースが成人心臓血管外科だけでなく小児心臓血管外科、呼吸器外科をも包括し、日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本呼吸器外科学会を基盤としてさらに拡大発展し、なおかつ健全なる運営をはかる目的で、これらを統轄する組織として「日本胸部外科手術データベース機構」(仮称)の設立が不可欠のものと思われる。特に、参加施設が53施設になることにより、事務局業務が拡大し専門職員が必要となる。また、施設拡大により運営資金も莫大なものとなり、研究費などでまかなうことは不可能となる。よって、経済的にも運営面でも確固たる基盤として機能する「データベース機構」が必要不可欠であると考えられる。

# 日本成人心臓血管外科手術データベース(JACVSD)

## 報告

2002年9月18日

委員長 高本眞一

### 1. 本年度の活動

#### (1) データ収集

Web base のデータ収集システムを用い、2002年1月より21施設で、6月より大阪大学を加えた22施設でデータ収集を行っている。9月18日の時点で計1347症例のデータが集まっている。

#### (2) データマネージャー会議の開催

2002年2月15日大阪にて、4月11日京都にて、それぞれ第2回(27名参加)、第3回(15名参加)のデータマネージャー会議を開催した。Web base データ収集システムの改良点、データ入力フォームの改良点など活発な議論が展開された。

### 2. 研究費

日本学術振興会による平成14年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)に採択され、主として入力委託に対する費用計上が可能となった。

### 3. 今後の展望

#### (1) Web base データ収集の継続

現在行っているデータ収集を今後も継続し、システムや入力フォームなどの改善活動を進めていく。

#### (2) データ未入力施設への入力依頼

22施設のうち現在までに入力ゼロの施設が6施設あり、今後積極的な入力依頼を進めていく。

#### (3) 参加施設の拡大に関して

現在22施設でデータ収集しているが、今年度中に50施設まで拡大することを検討している。

昨年に引き続き、日本成人心臓血管外科手術データベース Japan Adult Cardiovascular Surgery Database (JACVSD) の活動状況を報告する。

(1) インターネットを介したデータ収集の継続

インターネットを介しての Data Collection Form への記入を継続している。現在全国で21施設が参加しており、2003年2月20日の時点で入力総症例数2307となった。

(2) 参加施設の拡大

上記21施設でデータ収集状況を確認した後、参加施設を拡大するべく学会ホームページに全国に向けて再度公募した。応募条件は、「1. 成人心臓血管外科手術 年間75例以上。2. データ入力（入力されたデータが正しいかのチェック；data validation）を責任持って遂行可能な人員（データマネージャー；医師である必要なし）を確保できる。3. 最低5年間継続できる。4. このデータベースに関連するセミナーや会議に出席できる。5. データ入力のためのコンピューターが確保できる。6. UMINと連結できる。」とした。その結果以下の41施設が応募された。

国立療養所帯広病院
岩手医科大学附属循環器医療センター
弘前大学医学部附属病院
医療法人社団仁愛会東日本循環器病院 心臓血管センター
自治医科大学附属病院
船橋市立医療センター
労働福祉事業団横浜労災病院
財団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院
東京医科大学病院
東京女子医科大学附属第二病院
東京都済生会中央病院
東邦大学医学部附属大橋病院
東邦大学医学部附属大森病院
大垣市民病院
公立陶生病院
信州大学医学部附属病院
富山医科薬科大学附属病院

名古屋市立大学病院
労働福祉事業団浜松労災病院
奈良県立医科大学附属病院
兵庫医科大学病院
広島市立安佐市民病院
鹿児島大学医学部附属病院
九州大学医学部附属病院
熊本大学医学部附属病院
国家公務員共済組合連合会熊本中央病院
財団法人厚生年金事業振興団九州厚生年金病院
佐賀医科大学医学部附属病院
佐賀県立病院好生館
社団法人宮崎市郡医師会病院
琉球大学医学部附属病院
市立旭川病院
聖マリアンナ医科大学病院
藤田保健衛生大学
関西医科大学
愛媛県立中央病院
山口大学医学部附属病院
徳島大学医学部附属病院
りんくう総合医療センター市立泉佐野病院
和歌山県立医科大学附属病院
京都府立医科大学附属病院

これまでの21施設に加え、今後計62施設でデータ収集を行うこととなる。

### (3) 英語版の完成とアジア諸国への展開

本データベースの英語版が完成し、2月14日（金）に開催された第11回アジア心臓血管外科学会データベース委員会で披露された。その際、韓国・マレーシア・シンガポール・インド・中国の国々がこのデータベースに参加し、パイロットスタディを始めることが決定した。

### (4) 「日本胸部外科手術データベース機構」（仮称）の必要性

本データベースが成人心臓血管外科だけでなく小児心臓血管外科、呼吸器外科をも包括し、日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本呼



吸器外科学会を基盤としてさらに拡大発展し、なおかつ健全なる運営をはかる目的で、これらを統轄する組織として「日本胸部外科手術データベース機構」（仮称）の設立が不可欠のものと思われる。特に、参加施設が62施設になることにより、事務局業務が拡大し専門職員が必要となる。また、施設拡大により運営資金も莫大なものとなり、研究費などでまかなうことは不可能となる。よって、経済的にも運営面でも確固たる基盤として機能する「データベース機構」が必要不可欠であると考えらる。

## 日本成人心臓血管外科手術データベース(JACVSD)報告

委員長 高本眞一

日本成人心臓血管外科手術データベース Japan Adult Cardiovascular Surgery Database (JACVSD) の活動状況を報告する。

### (1) インターネットを介したデータ収集の継続

インターネットを介しての Data Collection Form への記入を継続している。現在全国で21施設が参加しており、2003年4月28日の時点で入力総症例数2743となった。

### (2) 参加施設の拡大

上記21施設でデータ収集状況を確認した後、参加施設を拡大するべく学会ホームページに全国に向けて再度公募した。応募条件は、「1. 成人心臓大血管外科手術 年間75例以上。2. データ入力（入力されたデータが正しいかのチェック；data validation）を責任持って遂行可能な人員（データマネージャー；医師である必要なし）を確保できる。3. 最低5年間継続できる。4. このデータベースに関連するセミナーや会議に出席できる。5. データ入力のためのコンピューターが確保できる。6. UMINと連結できる。」とした。その結果41施設が応募され、今後計62施設でデータ収集を行うこととなる。

### (3) 英語版の完成とアジア諸国への展開

本データベースの英語版が完成し、2月14日（金）に開催された第11回アジア心臓血管外科学会データベース委員会で披露された。その際、韓国・マレーシア・シンガポール・インド・中国の国々がこのデータベースに参加し、パイロットスタディを始めることが決定した。

### (4) 「日本胸部外科手術データベース機構」（仮称）の必要性

本データベースが成人心臓血管外科だけでなく小児心臓血管外科、呼吸器外科をも包括し、日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本呼吸器外科学会を基盤としてさらに拡大発展し、なおかつ健全なる運営をはかる目的で、これらを統轄する組織として「日本胸部外科手術データベース機構」（仮称）の設立が不可欠のものと思われる。特に、参加施設が62施設になることにより、事務局業務が拡大し専門職員が必要となる。また、施設拡大により運営資金も莫大なものとなり、研究費などでまかなうことは不可能となる。よって、経済的にも運営面でも確固たる基盤として機能する「データベース機構」が必要不可欠であると考えられる。

日本成人心臓血管外科手術データベース Japan Adult Cardiovascular Surgery Database (JACVSD) の活動状況を報告する。

(1) インターネットを介したデータ収集の継続

インターネットを介しての Data Collection Form への記入を継続している。現在全国で21施設が参加しており、2003年4月28日の時点で入力総症例数2743となった。

(2) 参加施設の拡大

上記21施設でデータ収集状況を確認した後、参加施設を拡大するべく学会ホームページに全国に向けて再度公募した。応募条件は、「1. 成人心臓大血管外科手術 年間75例以上。2. データ入力(入力されたデータが正しいかのチェック; data validation)を責任持って遂行可能な人員(データマネージャー; 医師である必要なし)を確保できる。3. 最低5年間継続できる。4. このデータベースに関連するセミナーや会議に出席できる。5. データ入力のためのコンピューターが確保できる。6. UMINと連結できる。」とした。その結果41施設が応募され、今後計62施設でデータ収集を行うこととなる。

(3) 英語版の完成とアジア諸国への展開

本データベースの英語版が完成し、2月14日(金)に開催された第11回アジア心臓血管外科学会データベース委員会で披露された。その際、韓国・マレーシア・シンガポール・インド・中国の国々がこのデータベースに参加し、パイロットスタディを始めることが決定した。

(4) 「日本心臓血管外科手術データベース機構」(仮称)の必要性

本データベースがさらに拡大発展し、なおかつ健全なる運営をはかる目的で、これらを統轄する組織として「日本心臓血管外科手術データベース機構」(仮称)の設立が不可欠のものと思われる。特に、参加施設が62施設になることにより、事務局業務が拡大し専門職員が必要となる。また、施設拡大により運営資金も莫大なものとなり、研究費などでまかなうことは不可能となる。よって、経済的にも運営面でも確固たる基盤として機能する「データベース機構」が必要不可欠であると考えられる。

## JACVSD 委員会

2003/05/14 18:00 – 18:30

札幌市、ロイトン札幌、20 階 パールホール

### 議題

1. データ入力の現状報告  
施設別の入力数
2. 参加施設拡大の報告
3. 国立循環器病センターからの提言（生年月日の取り扱い）

いつもお世話になります。

当センターの倫理委員会において、厚生労働省より出されている疫学的研究のガイドラインから見て患者の生年月日は登録すべきでないとの、答申が出ました。今度のデータマネージャー会議において、登録のフォームの変更が出来ないか検討していただきたくお願い申し上げます。

国立循環器病センター 心臓血管外科 小林順二郎